

第4学年 道徳学習指導案

は組 男子17名 女子17名 計34名
指 導 者 永 田 佑

1 主 題 名 自分がやるべきことは

1-(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、生活における基本的なことが自分でできるようになってきた中で、自分で考えて行動することの大切さを理解し、度を過ぎさず節度のある生活をしようと努力してきている。しかし、自己中心的な考えや思慮不足などから、自分でできることは自分でやらなければならないと分かりつつもなかなか実行できなかつたり、度を過ぎた行動をしてしまつたりすることもある。このようなことから、この期の子どもたちに、自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をするのが気持ちのよい生活につながることを理解させ、自分がやるべきことをよく考えて行動しようとする態度を育てる必要がある。

そこで、本主題では、自分がやるべきことよりも、やりたいことを優先してしまう場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする大切さを理解し、やるべきことをよく考えて行動しようとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をしようとする生き方は、自分の生活を明るく気持ちよく過ごせることにつながることを実感し、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けようとする生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をしようとするにつれて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をしようとするとは、自分がやるべきことを理解し、優先順位を考えて行動すること、そのことによって、自分の生活を自分でコントロールして気持ちよい生活をつくることと捉えることができる。

ここでは、望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、自他共に調和的に生きたいという願いを基に、自分がやるべきことをよく考えて判断し、行動することを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、自分がやるべきことをよく考えて



◎は重点的な学習内容

判断し、行動することで、自分の気持ちがすっきりしたり自己の成長につながったりすることや、相手も快い感情になり、みんなが支え合って楽しく気持ちよく生活できるようになることなどの意義を理解させる。それらの実現に必要な心構えとして、自分がやるべきことを考える、優先順位を考える、先のことを考えて判断し、行動しようとする気持ち等が大切であることも理解させる。さらには、意義や心構えの理解を深めるために、自分がやるべきことをよく考えて判断し、行動しようと思いつつも、自己中心的な考えや思慮不足、他律的な考えなどの心の弱さから、なかなか実践できないことがあることにも気付かせるようにする。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「エジソンとえいじ」（文溪堂）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

いろいろなものを工夫するのが得意で、みんなから「エジソンえいじ」と呼ばれる主人公は、帰宅後、宿題をするか、自分のやりたい三輪車の改造をするかで迷っていたが、三輪車の改造に夢中になり、宿題を終わらせることができなかった。次の日、「エジソン」の伝記を読んだ主人公は、自分の行動を振り返り、改めて宿題に向かうという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情と主人公との心情を関係付けて類推させながら、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず切実感のある自分の考えていきたい問題を追究していくために資料の一読から、自分がやるべきことをせずにやりたいことに夢中になっていた自分を振り返る場面で、自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度ある生活をするにかかわることがなぜ大切か、どのようなよさがあるか（意義・心構え）を多面的に追究させる。その際、自分の生活の経験における心情と関係付けながら、エジソンの行動や考えと、主人公の行動の変化とその背景にある心情を、重点的に扱う意義・心構えと関係付けて追究できるような対話活動を行う。さらには、自分の考えていきたい問題についてまとめていく中で、学習を通して変わったり確かになったりした自分の考えやその理由、それにつながる生活場面を意識させることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、自分がやるべきことをよく考えて判断し、行動することを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度ある生活をするにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）等についての認識は以下のとおりである。

[表1] 自分でできた経験（総反応数98）とその時の感情（総反応数41）

経験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
自分からあいさつができた	23	がんばってやりたい	20
勉強や習い事をしっかりすることができた	21	気持ちよく過ごせるといいな	11
整理整頓や片付けができた	19	みんなに喜んでもらいたい	6
手伝いやボランティアができた	19	感謝の気持ちを表したい	4
早寝・早起きや手洗い・うがいができた	16		

[表2] 自分でできなかった心情（総反応数46）

心情	反応数(人)	心情	反応数(人)
自己中心的な考え（自分がやりたいことをしたい）	10	怠惰な感情（めんどうだ）	9
思慮不足（これくらい、いいだろう）	10	外への欲求（遊びたい）	6
他律的な考え（人が言うからやる）	10	自信のなさ（自分にはできない）	1

[表3] 実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）についての認識

総反応数 119

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)			
対自己	うれしい、すっきりする	22	対他者	気持ちよく過ごせる	21	対集団・社会	気持ちよく過ごせる	19
	気持ちよく過ごせる	13		うれしい、すっきりする	15		安心して過ごせる	9
	自信をもつことができる	3		感謝する	3		自分もやろうと思う	9
	自分に返ってくる	3		自分もやろうと思う	2			

[表4] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識

総反応数35

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
がんばる気持ちをもつ	12	まずは、やるべきことをする	5	あとのことを考える	3
相手や周りの人のことを考える	11	みんなのためにやろうという気持ちをもつ	4		

[表1]の「がんばってやりたい」「気持ちよく過ごせるといいな」「みんなに喜んでもらいたい」等の感情が多いことから、自分のことを奮い立たせたり、相手や周りの人の気持ちや立場を考えたりして、自分でできることを自分でやる経験が多いことが考えられる。また、[表3]から、自分でできることを自分でやるのが、「自分や相手、社会全体が気持ちよく過ごせる」という意義につながっていると感じている子どもが多いことが分かる。その反面、[表2]の「自分がやりたいことをしたい」「これくらい、いいだろう」「人が言うからやる」といった感情から、様々な場面において自分でできることを自分でやることの難しさを感じていることが分かる。さらに、[表4]から、「まずは、やるべきことをする」「あとのことを考える」といった行動の優先順位や先のことを見通してよく考え、判断したことを行動しようとする気持ちや考えをもっている子どもは少ない。

これらの実態から、「自分がやるべきことや行動の優先順位を考える」「先のことを考えて判断し、行動する」などの心構えや、「自他共に気持ちよく生活できる」「安心して過ごせる社会につながる」などのよさを関係付けて考えさせたり、自己中心的な考えで行動することが望ましい結果につながらないことを関係付けて考えさせたりして、自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をするとは、どのようなことかを深く追究させる必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、主人公の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けて考え、互いの考えを比較したり関係付けたりしながら、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、多様な道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方に触れさせていく際に、自分の立場を明確にさせながら、互いの考えやその理由を交流させる必要がある。さらに、学習を通して、自分自身の見方等がどのように変わったか、その理由は何かなどを明確にさせてまとめていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度ある生活をするための生き方のよさを主体的に追究することを通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、子どもたち自身が捉えている「自分がやるべきこと」とはどんなことか、実際の生活場面で自分がやるべきことをしっかりやれているかを考えさせ、疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、ここでの道徳的価値について見方等を十分に深めたり広げたりさせるために、主人公の行動が変わった場面に焦点化し、追究させる。その際、子どもたちに、主人公の生き方がエジソンの生き方により近いと感じる場面とその理由を表出させることで、自分の立場を明確にした対話活動を行いながら、道徳的価値に対する見方等を多様に表出させる。そして、自分がやるべきことをよく考えずに、やりたいことを優先してしまった主人公の行動では、結果的にやるべきことがしっかりやれなかったことと、エジソンの行動の背景にある気持ちや考えである「やるべきことや行動の優先順位を考える」「先のことを考えて判断し、行動する」「よく考えて行動すると、すっきりして気持ちよく生活できる」こととを関係付けて考えさせていく。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これからの生かしていこうとする意欲を高めさせるために、自分の生き方を振り返らせる。その際、資料中の主人公の考えや話し合い中の友だちの考えなど、自分の見方等が広がったり深まったりした理由を明確にさせる。さらに、自分がこれからの生活の中で大切にしたい気持ちや考えは何か、それは、どのような生活の場面で生かせそうかを視点に考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をするにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分がやるべきことをよく考えて判断し、行動しようとする気持ちを高めることができる。
- イ 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をするにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら考え、表現することができる。
- ウ 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をするについて、「自分もみんなも気持ちよく生活できることにつながる」「自分がやるべきことや優先順位をよく考える」といった気持ちや考えを自分の生き方のかかわりを通して理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、方向性の決定を目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、「主人公の行動がエジソンに一番近いのは、どの場面か。」と問い、自分の立場を明確にさせることで、自分のやるべきことや優先順位をよく考える、よく考えて行動することですっきりして気持ちよく生活できるなどの多様な見方等を表出させながら展開していく。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付き ↓ さぐる ↓ 見つける ↓ 深める ↓ 見通す	1 考えていきたい問題に気付く。 自分がやるべきことをするとは、どういうことだろう。	(分) 7	○ 切実な問題意識をもたせるために、普段の生活の中で、自分のやるべきことについて捉えていることを挙げさせる。そして、実際の生活で自分のやるべきことができなかったときの心情を発表させ、それらの矛盾から、問題意識をもたせる。
	2 資料「エジソンとえいじ」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) 主人公の心情、心情の変化について感想をもち、考えていきたい場面を選択する。 (2) 主人公の行動の変化につながった気持ちや考えと、そのよさについて話し合う。 【えいじが宿題に向かう時の心情】 【発明に夢中になっている時】 ・新しい発明をしたい。 ・宿題は、あとからちゃんとやる。 【エジソンの伝記を読んだ時】 ・エジソンみたいになりたい。 ・自分がやるべきことを、しっかりやるのが大事。 【心の弱さ】 ・好きなことがしたい。 ・少しくらい、いいだろう。 自分が何をすべきなのかをよく考えて、やるべきことをしっかりやればいいんだな。 自分の行動を振り返ることが大事だな。 【心構え】 ・自分がやるべきことや優先順位をよく考える。 ・先のことも考えて、行動する。 すっきりして、次のやる気につながる。	14	○ 資料を感動的に読み取らせ、主人公の心情への共感を高めるために、資料を一読する前に、エジソンの説明を行う。 ◎ 「憧れのエジソンに一番近いのは、どのえいじだろう。」 ○ 主人公の気持ちを自らの体験場面での内面と関係付けて考えさせるために、資料中から、主人公がエジソンに一番近い姿の場面を挙げ、その理由や考えを明確にさせる。
	○ 道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりさせるために、自分の立場を明確にした話し合いの場を設定し、互いの考えに共感したり、自分の考えを付加したり、それぞれが多様な道徳的価値観を表出したりしながら話し合わせる。その際、やりたいことに夢中になりすぎて、結果的に自分がやるべきことをできずにいることや、エジソンの伝記を読んだ後の主人公の行動が変わったことに着目させ、自分がやりたいことを優先する見方等と、やるべきことを優先する見方等を意図的に交流させる。	14	○ 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をするの大切さやよさを追究させるために、エジソンの子どもの頃の話から明確になった「自分がやるべきことや行動の優先順位をよく考える」、「先のことも考えて、行動する」などの考えと、その考えをもとに行動が変わったえいじが感じた達成感や爽快感とを関係付けて考えさせる。
	(3) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えで感じたことや考えたことについて話し合う。 	8	○ 学んだことを自分の生活とのかかわりの中で考えさせるようにするために、自分なりの考えを端的にまとめさせる。その際、今後の生活の中で大切にしたい気持ちや考え、生活の中で生かせそうな場面を考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。
4 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をするにかかわることについて教師の説話を聞く。 	2	○ 学習したことの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、説話を行う。	

道徳